

# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第15号 平成20年 8月26日

相手投手：村中9回完投161球、15奪三振、1四球お見事！

走った走った牧野・山田RH！！



8月23日予てから調整していた、KOKUSAIとのゲームを、憧れであったビッグNで行った。グラウンド入り30分前にスコールの先例、対戦が危ぶまれたが、手入りの行き届いているさすが、ビッグN、先程のスコールも物ともせず、無事開催の運びとなった。冬眠中である、長崎メンバーとの再会に気持ちも高揚、練習で汗を流した後は、プレイボールを待つだけとなった。今日の我が方は先攻、熊本に行った瓶子を先頭打者に置き、ゲームは始まった。相手投手は村中、初対戦であるが、投球練習を見ている限りは、投手戦を予感させた。久々の野球だけに動向が気になる所であったが、ブランクが響き先頭瓶子は3球三振に終わった。続く松浦内野ゴロ、そして深沢が空振り三振と我が方にとっては、神妙な、相手チームに取っては、素晴らしい立ち上がりとなった。先制したのは我がチーム、柵川のセンター前ヒットで出塁し、中富のライト前ヒットを相手守備の乱れの間にホームインし、先制を挙げた。4回の先頭もまたもや柵川イージーなサードゴロを慎重になり過ぎた三塁手がまさかの暴投、その間に柵川は2塁まで進塁、次打者牧野のサードゴロを今度は1塁手がエラー、その間に一挙2塁から柵川が生還し、2点目も挙げた。しかし、チャンスの後にはピンチが待つのが野球、今日の牧野が今日初の四球を先頭打者に献上し、その後は内野陣の守備の拙さと1本のヒットで3点を献上し、一気に逆転を許してしまった。6回の攻撃で、松浦・牧野の2本の3塁打と柵川のライト犠飛で2点を挙げ、またもや逆転した。投手戦の様相を見せていた今日のゲームであるが、ここまでは、相手チームのエラーをいかに点に絡めるかが勝敗の分かれ目になりそうなゲームであった。7回相手チームの攻撃、投手は、先発牧野から幹男にシフトし、幹男は今日2度目のマウンド、1回を無難にこなしただけに、この回の投球にも注目が集まった。しかし、3四死球・3単打を浴び、5点を献上し、またもや逆転を許してしまった。今日は9回戦で開催したまさに9回、最後の我がチームの攻撃は牧野から始まった。2-1と追い込まれたカウント、来た球を振りぬいた打球は、レフト戦を鋭く外野まで運んだ。その間巨漢を揺らして走った牧野はあつという間に、本塁へ、我がチームは興奮状態、走塁とボールの行方を重ね合わせた本塁上は、牧野が早く、ランニングホームランを決めた。その差は3点、負けムードであったベンチ内も息を吹き返し、歓声で沸き返っていた。続く打者は倒れたものの、山林が得意のチョロヒットで出塁、政司がサードゴロエラーで出塁、1アウト2、3塁でここまでノーヒットの山田、カウントは2-1で追い込まれた状態、投げ込まれた次のボールを強振、ボールはセンターの左を抜け軽々とフェンス方向へ、素早く出塁ランナーはホームを踏み、1点差、バッターランナー山田は2塁を回ったところで、足元を取られたが、外国帰りで細くなった腹(体重)が功を奏し、一挙に生還し、これまたランニングホームランを決め、同点とした。その後もここまで無四球の相手投手からお見事秋山が四球を選び、2アウトながら、2、3塁と絶好の勝ち越しチャンスを迎えた。バッターはここまで芯を食っていない深沢、2-2と粘ったが振れていない時は見えていないもので、高めのボールに手を出し、三振を喫した。その裏は幹男から引継いだ政司が内野陣のエラーでランナーを出したが、最終打者を空振り三振とし、0点に抑え、サヨナラを防いだ。結果は時間切れ引き分けとなったが、今日の勝敗はまさに守備に有った様に感じた。「攻撃は最大の防御なり」と言うが、日ハム稲葉が言うように「守備は最大の攻撃なり」の言葉とおりのゲーム内容であった。これからはまさに後半戦に突入し、勝率5割を目指すには、まさにこれが今後の勝敗の分かれ目になるだろう！それにしてもあそこで1本出していれば、と今期一番の悔しさが残るゲームであったが、内容は両チーム満足行く結果だったかも知れない・・・